大田原納税貯蓄組合連合会長賞

命をつなぐ税金

大田原市立大田原中学校

３年　萩原　聖桜

「税金」と聞くと、以前の私は「大人が使うお金」というイメージしかなかった。しかし、ある経験を通して、税金は私たちの命や安心な暮らしを支える、とても大切なお金だと実感するようになった。

私が税金について真剣に考えるようになったきっかけは、兄がサッカーの試合中に大きな怪我をした時だった。試合中に相手とぶつかって倒れた兄は、その場で立ち上がることができなかった。私はとても不安でしかなかった。しかし、救急車がすぐに到着し、救急隊の方が落ち着いて兄の状態を確認しながら病院へ搬送してくれた。その冷静な対応のおかげで、兄は適切な治療を受けることができた。あの時救急隊の方々がいてくれたことは、私たち家族にとって本当に心強いものだった。

その経験を通して、「消防士などの活動にどれくらいのお金がかかるのか」と考えるようになった。調べてみると、令和６年度の大田原市では 13 億 5,711 万円の消防費が予算として記載されていた。この予算は、消防署の運営だけではなく、消防車や救急車の購入や整備、119 番通報を受ける通信設備など私たちの命を守るために使われている。

もし税金がなければ、消防車や救急車を買い替えることも難しくなり、必要な医療機器などを十分にそろえることもできない。訓練の回数が減れば、災害や事故への対応にも影響が出る。私たちが当たり前のように 119 番へ電話をすれば救急車や消防車が来てくれるのは、多くの人が納めた税金によって、その体制が 24 時間維持されているからなのだ。そして税金が使われているのは消防だけではない。学校で使う教科書や警察など、私たちが毎日安心して生活ができる環境の多くは税金によって支えられている。一人ひとりが納める税金は決して大きな金額ではないかもしれないが、それが集まることで、社会を支える大きな力になる。税金とは、お互い助けあい、安心して暮らせる社会をつくるためのお金なのだと知るきっかけとなった。

兄が救急車で搬送されたあの日、私は救急隊の方々の存在のありがたさを感じた。そして消防士が日々、地域の人たちの命を守るために働けるのも、市民が納めた税金によって必要設備や環境が整えられているからだ。税金は目に見えないものだが、私たちの暮らしのすぐそばで大きな役割を果たしている。

将来、私も税金を納める立場となる。そのときは、税金はただ支払うものではなく、誰かの命や安心を支え、自分自身の生活も守ってくれる大切なお金だということを忘れず、そして消防士や救急隊をはじめ、私たちの暮らしを支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを持ちながら、社会の一員として責任ある行動をしていきたいと思う。